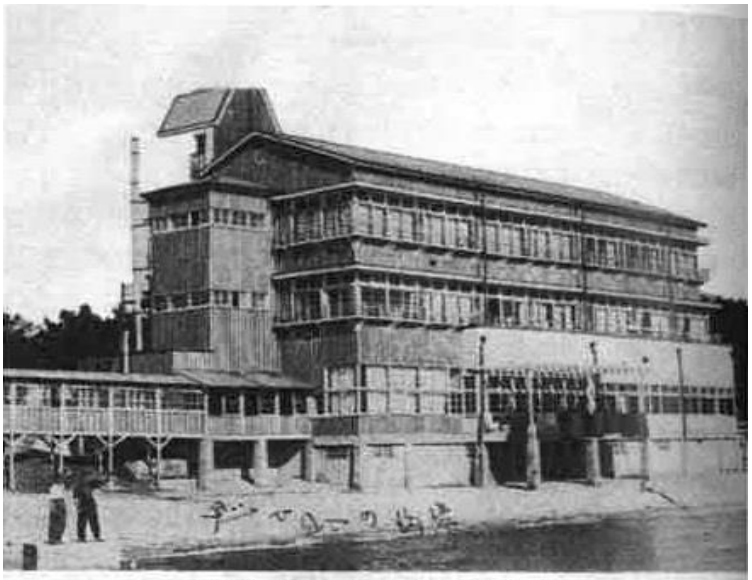
㊙仁川派遣隊

太平洋戦争下の昭和17年、南東方面戦線への物資補給が難しくなったことから、陸軍が潜水艦による貨物輸送を計画した。三式潜航輸送艇と呼ばれるこの潜水艦は輸送の「ゆ」を〇で囲み、「㊙」通称まるゆと呼ばれることが多い。建造を担ったのは日立製作所笠戸工場、日本製鋼所広島工場、安藤鉄工所、そして外地で唯一、朝鮮機械製作所仁川工場が選定された。同時に潜水艦の乗員育成も急務とされ、愛媛県伊予三島市（現在は四国中央市）に㊙陸軍輸送教育隊の部隊を置き、海軍が 5 年かかると言われる潜水艦乗員を陸軍は 1 年足らずで育てた。そして急がれる物資補給の任務のため、建造中の潜水艦で最終訓練を行うこととし、選抜された乗組員が仁川へと派遣された。これを㊙仁川派遣隊（以下仁川派遣隊）という。

仁川で建造された㊙は「ゆ 3001」～「ゆ 3010」（ゆ 3004 は欠番）と艦番号が付けられ、仁川派遣隊は乗組む艦艇によって派遣されていた。仁川派遣隊の一番手となった 3001 号艇要員は昭和 19 年 2 月に編成され、2 月 21 日伊予三島を出発、仁川駅に 23 日早朝着いた。その日は朝日が光り輝く快晴で、降り積もった雪は凍っていたという。朝鮮機械製作所に向かい、温かい朝食がうまかったという話が残っている。このころはまだ、仁川派遣隊の宿舎が完成してなく、4 か月間は月尾島の浜ホテルの3階を仮の宿舎として使っていた。浜ホテルには女中さんもいて、食事を取りに行く必要がなく、柔らかい布団、大きな浴場、そしてプールも付いていたから乗員はとても満足していた。だが、この宿舎が利用できたのは仁川派遣隊の内、3001 号艇要員だけであった。



月尾島の浜ホテル（陸軍宿舎）

写真は『㊙全艇行動記録』国本康文著から

3002 号艇要員が仁川に到着する 7 月末ごろには朝鮮機械製作所が提供した艇要員収容のための寮（暁寮）が工場隣

に完成し、3001 号艇要員もそこへ移ることになった。この移動によりこれまでの優遇された環境から生活レベルが落ちたと嘆く声が聞こえそうである。（暁寮は木造 2 階建てで寮前の広場では朝礼や訓練も行うことができた。寮には管理人として湖城夫婦と炊事要員がいたという。暁寮について写真や詳細がわかるものなど、少しの情報でもいいので知らせてください）。3001 号艇要員が出て行った浜ホテルは陸軍仁川造兵廠の※公試要員の宿舎となり、看板も仁造航洋寮となった。

3001 号艇は昭和 19 年 9 月 8 日伊予三島に向かって出港したものの、途中、群山港手前の島陰で停泊中、味方の輸送船から敵艦と間違われ、体当たりを受ける。それにより左舷メインタンクを破損、そのあとも群山から麗水へ向かう途中、船団護衛艦から砲撃された。陸軍の潜水艦ということで海軍が使用していた旭日旗ではなく日の丸をつけていたことで、疑われたようだ。その後、釜山港でタンクを修理し、伊予三島に入港した。しかし、耐圧船殻に歪みが生じたことから、深々度潜航に危険と判断され、本来の輸送艇としての任務に就くことなく訓練艇となった。

※公試：艦艇建造の最終段階で、海上で行う性能テスト

写真左：愛媛県伊予三島（現四国中央市）にある㊙陸軍潜水輸送教育隊の記念碑
記念碑は金刀比羅宮（金毘羅神社）の境内にある
写真右：目印となる金刀比羅宮（金毘羅神社）
写真は2枚とも管理人が 2017 年に撮影したもの